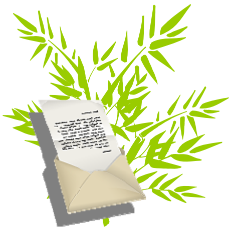
情報発信レポート



『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第40号（2009年10月5日）「上海現地レポート」

中国上海の現地レポートを2回にわたりお届けいたします。
今回は中国の「食事情」について、ご紹介させていただきます。

民以食為天

「**民以食為天**」という古くから伝わってきた中国の諺があります。「人は食を中心として生きる」という意味です。この諺通りに、中国人は「食文化」を大事にしています。

世界四大料理の一つとされる中華料理ですが、中国の13億の人口を考慮すると、世界で最も食べられている料理と言っても過言ではないでしょう。この中国料理の中でも代表的なのが、北京、上海、広東、四川の四大料理です。それではそれぞれ特徴をご紹介させていただきます。

中国4大料理

写真は上海にある有名な北京ダック専門店です。
焼く前の北京ダック。

北京料理：

宮廷料理であったため、手の込んだ繊細な、そして見栄えを大事にする料理が多いです。代表的な料理としては北京ダックがありますが、日本ではやや高価な料理です。しかし現地では一流店でも、一羽なんと2,000円程度です。

写真は上海一の小籠包名店です。因みに、カニ味噌入りが一番オススメです。

上海料理：

海沿いということもあり、海鮮料理が多いです。上海ガニと小籠包が世界中に知られていますが、現地では小籠包は朝食として食べることが多いのです。

写真はふかひれ入りのワンタンで、醤油ベースであっさりとしていました。高級料理にも関わらず、一人前4,000円ぐらいです。

広東料理：

ふかひれ、ツバメの巣など高級食材を調理している料理です。また、飲茶（ヤムチャ）が一種の食事スタイルとして世界中に知られており、中華料理の中ではさほど油っこくないです。

写真はニワトリの血の塊、豚の内臓、海鮮、野菜などを入れた激辛料理です。

四川料理：

とにかく辛いです！代表となる料理は麻婆豆腐です。普段日本で口にしている麻婆豆腐より数倍以上も辛く、辛さに弱い人にはお薦めできませんが、大量の汗を流しながら美味しくいただきました。

SPARX

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

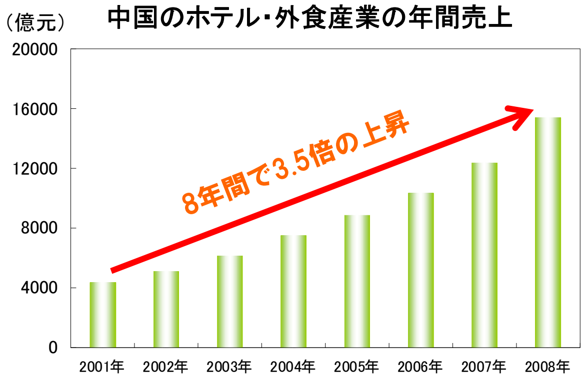
情報発信レポート

『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

絶好調な外食産業

ここ数年の中国のGDPの伸び率より、中国のホテル・外食産業の売上高は驚異的な数字を達成しています。中国国家統計局が発表した数字によると直近の8年間の売上はなんと3.5倍にもなっています。同産業がすでにサービス業の重要な基幹産業になりつつあることが分かります。今後も急速に伸びる外食産業が消費を牽引し、市場を豊かにし、雇用を創出し、経済発展に大きく貢献するものと思われます。



出所：中国国家統計局

現地の日系レストラン

先ほど中国の四大料理についてご紹介させていただきましたが、中国ではファーストフードも人気を呈しています。

21世紀に入ってから、マクドナルド、ケンタッキー、ピザハットなど欧米食文化が中国人の日常生活に入り始め、今日になって、中国人の胃袋を制覇する勢いで成長しています。もちろん日系企業もこの食文化の変化は見逃していません。ワタミ、吉野家、サイゼリヤなど日本外食産業の巨人たちが中国外食産業の成長性を見込み、次々と店舗を構えるようになりました。
吉野家ってレストラン？と疑問を持つ方がいらっしゃるかもしれませんが、上海の吉野家を見る限り立派なレストランになっています。カウンター席が一切見当たらなく、メニューの種類も日本の数倍ぐらい豊富です。

居食屋の「和民」はまだ店舗が多くありませんが、全部上海の一等地にお店を出しています。メニューは日本と同じ物が多く、新しい物を好む上海の若者に「日本の居酒屋」という概念を提供しているようです。

イタリアンレストランのサイゼリヤは日本企業であることはまだ現地の人に認識されてないようです。日本と同じく低価格戦略を展開し、常に行列が出来て、好調ぶりがうかがえます。

和民

吉野家

サイゼリヤ

（編集後記）上海のレストラン街に行って平日夜7時頃に、夕食を取ろうとお店を探したところ、驚いたことに、すべてのお店に行列ができているのです。どのお店も混み合っているならば、一番行列が長い人気店に並ぼうとしましたが、整理券が配られ、456番で300組程度の待ち状況。残念ですがあきらめました。

（告られタイ）

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。